

# 出雲市中小企業景況調査報告書

(平成25年10月～12月期)

1. 調査期間 平成26年1月6日(月)～平成26年1月15日(水)

2. 調査対象企業 出雲市内事業所180社 回答数 169社 回答率 93.9%

業種	出雲商工会議所管内		平田商工会議所管内		出雲商工会管内		斐川町商工会管内		合計	
	対象企業数	回答企業数	対象企業数	回答企業数	対象企業数	回答企業数	対象企業数	回答企業数	対象企業数	回答企業数
建設業	13	13	4	4	4	4	4	2	25	23
製造業	18	18	7	7	6	5	5	4	36	34
卸売業	9	9	2	2	3	3	3	2	17	16
小売業	23	20	9	9	8	8	9	9	49	46
サービス業	27	27	8	8	9	8	9	7	53	50
合計	90	87	30	30	30	28	30	24	180	169

3. 調査実施機関 出雲商工会議所、平田商工会議所、出雲商工会、斐川町商工会

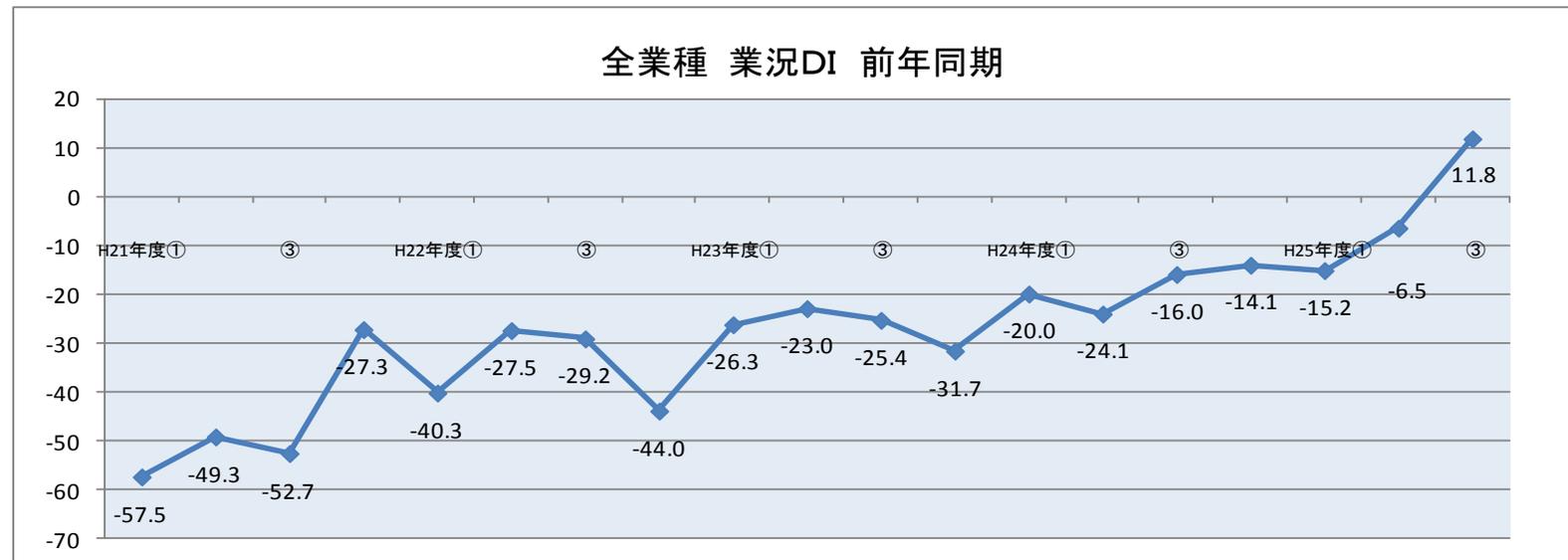
## 今 期（2013年10－12月）の 概 要

本調査は、出雲商工会議所が平田商工会議所、出雲商工会、斐川町商工会と共同で市内事業所から調査対象事業所180社を選定し実施しています。

概 況（前期調査＝2013年7－9月期）

○全業種の業況DIをみると、前期比で16.5（前期調査△8.2）、前年同期比で11.8（前期調査△6.5）と大幅プラスに転じ、本調査開始以来、最高の水準に達しています。（下図参照）しかし、来期業況見通しにおいては、好調な今期の反動を懸念する声が多く、今期比△15.6（前期調査△4.5）と大幅な悪化予想となっています。

日銀松江支店が1月に発表した「山陰経済の成長力底上げに向けた課題」の中で、今回の景気回復局面では、山陰をはじめ地方圏の方が都市圏よりも景況感が改善するというこれまでにない展開となっており、過去の景気回復は外需に牽引されることが多く、製造業の業況改善が目立ったが、今次2013年の景気回復は内需主導であるため、製造業よりも非製造業の業況改善が進んでいるとしています。サービス業を中心とした非製造業は、事業展開が地域密着になることが多いため、内需主導の景気回復の恩恵は地方に及びやすく、特に山陰の場合は、出雲大社の遷宮効果もあって、観光需要の増加が特に顕著であるが、幅広い非製造業企業の業況改善を促しているとしています。その一方で、こうした非製造業の業況改善は、公共投資の増加や大社の大遷宮といった外的要因によってもたらされたものであり、企業による積極的な需要掘り起こしという内的要因に牽引されたものではないため、今後の景気回復の持続性は、企業が潜在需要を掘り起こし生産性を改善させるために、有形資産投資に加え、無形資産投資を増加させていく必要があるとしています。



- 出雲市内給水量状況について、25年度8～9月の契約件数は38,192件、10～11月は38,467件となり、前年同期比でそれぞれ増加しました。しかし、使用水量は8～9月1,895,546<sup>m</sup>、10～11月は1,804,062<sup>m</sup>となり、前年同月比52,147<sup>m</sup>、36,218<sup>m</sup>減少しました。
- 電力使用量状況について、「特定規模需要以外の需要」の電灯・電力計は171,999千kWhとなり、前年同月比で1,987千kWhの減少、3期連続で節電が図られています。「特定規模需要」は業務用・産業用ともに増加し、合計で298,277千kWhとなりました。産業用の使用量は3期連続で増加しています。今期の販売電力量合計は6,345千kWh増加の470,276千kWhとなりました。
- 出雲市人口動態について、自然要因では27カ月連続で死亡者数が出生者数を上回っています。25年12月末時点の当市の人口は男性84,434人、女性90,415人の合計174,849人で、60,930世帯となっています。
- 雇用情勢（出雲公共職業安定所管内）について、10月～12月の求人倍率は1.10倍、1.10倍、1.15倍となり、前年同月比をすべて上回るとともに、すべて1倍を超えました。新規求人数は前年同月比でそれぞれ、10月2.5%、11月6.6%、12月10.7%ダウンしました。
- 島根県統計調査課のまとめた毎月勤労統計調査25年11月分月報（事業所規模5人以上）によると、現金給与総額は前年同月比0.8ポイントアップの244,022円で3カ月連続の増加となりました。現金給与総額のうち、きまって支給する給与は前年同期比1.7ポイントアップの234,969円で3カ月連続の増加となり、所定内給与も1.0ポイントアップの217,789円で3カ月連続の増加となりました。総実労働時間は158.2時間で前年同月比1.1ポイントアップ、3カ月連続の増加となりました。所定内労働時間も、147.2時間と3カ月連続で増加しました。所定外労働時間は11.0時間で3カ月連続の増加となる12.3ポイントアップでした。一方、常用労働者数は前年同月比0.1ポイントアップの230,578人でした。
- 企業倒産状況について、10～12月の出雲市の倒産は1件で、負債総額は185百万円。県全体では6件の倒産、1,609百万円の負債総額でした。年末に、今期最大の負債総額977百万円の倒産があったことから、前期に比べ金額が大きくなっています。
- 出雲市内信用保証状況について、10月～12月の月別保証承諾金額は前年比で10月：147.47%、11月：116.37%、12月：62.57%となりました。一方、保証債務残高はそれぞれ前年比92.72%、93.29%、93.68%となり、30カ月連続の前年割れとなっています。年度代弁累計はそれぞれ前年比69.82%、46.31%、40.48%でした。
- 出雲市内建築確認申請状況について、10月～12月の申請件数の合計は308件で前年同期比63件増加しました。消費税増税前の駆け込み需要も見られることから、引き続き好調のようです。
- 県営公共事業の状況について、10月～12月の合計は2,911,020千円となり、前年同月比774,539千円の増となりました。建築が254,744千円減少したものの、そのほかの土木・舗装工事・その他の3部門では増加しています。

## 業種別景況調査の主要 DI

(前期調査＝2013年7－9月期)

### 1、建設業

- ・ 今期業況 DI は、前期比が 18.2 (前期調査 0.0) で、大幅プラスに転じています。消費税増税前の駆け込み需要の増加が影響していると思われます。
- ・ 売上の DI は、前期比では 30.4 (前期調査 0.0)、採算の DI が前期比 26.1 (前期調査△13.0) と大幅プラスとなりました。一方、前年同期比では、採算の DI が△13.0 (前期調査 0.0) でマイナスとなっており、「受注増加の一方で受注単価は変わらないため、利益が出ない状況である。」という声が聞かれます。
- ・ 来期業況見通し DI は、今期比で△13.0 (前期調査△9.5) とマイナス予測されています。「消費税増税前の駆け込み需要で忙しいが利益が出ていない。4月以降の受注減少が懸念される」という声もあるように、来期売上見通し DI も△21.7 (前期調査 4.5)、来期採算見通し DI も△30.4 (前期調査△4.5) と、さらなる悪化が見込まれています。

### 2、製造業

- ・ 今期業況 DI は、前期比が 20.6 (前期調査△3.0) と大幅プラスとなるとともに、前年同期比でも 17.6 (前期調査△12.1) となり、いずれも 3期連続の改善が見られました。
- ・ 売上 DI は、前期比が 32.4 (前期調査 8.8) と大幅プラスを示し、前年同期比も 5.9 (前期調査△2.9) とプラスに転じ、業況 DI と同様、3期連続での回復となりました。「自動車関連の設備が好調」「消費税増税前の駆け込み需要が大」など、明るい声が聞かれます。
- ・ 来期業況見通し DI は、今期比 0.0 (前期調査 5.9) を示しており、悪化予想となっています。来期売上見通し DI も、0.0 (前期調査 20.6) となり大幅な悪化を予想しています。

### 3、卸売業

- ・ 今期業況 DI は、前期比では 6.7 (前期調査 6.3) と横ばいで推移しています。前年同期比では 26.7 (前期調査 6.3) と大幅プラスとなりました。
- ・ 売上 DI は、前期比で 25.0 (前期調査 0.0)、前年同期比では 12.5 (前期調査△25.0) と大幅プラスとなりました。その一方では、「消費税増税前の購入がまだ本格的に始まっていないので、期待通りにいかなかった」「市場で物が売れない」「円安の影響で仕入れ値が影響し、得意先が安い方へ流れた」など厳しい声も上がっています。
- ・ 来期業況見通し DI は、今期比で 0.0 (前期調査 6.7) と後退する見通し。同様に、来期売上見通し DI も、12.5 (前期調査 25.0) と後退して

おり、来期の業況悪化を懸念しています。

#### 4、小 売 業

- ・ 今期業況 DI は、前期比で4.7（前期調査△23.3）とプラスに転じました。「年末商戦が好調だった」「出雲大社の神迎祭の影響で観光客が増え、売上が増加した」という明るい声がある一方で、「固定客しか売上がないため、売上を伸ばすということが無理」「主力商品のすべてがマージン不足の状況」という厳しい状況を示す意見もありました。前年同期比では△4.4（前期調査△18.6）と、マイナス幅が縮小しました。
- ・ 売上 DI は、前期比で22.7（前期調査△16.3）と大幅プラスに転じました。前年同期比でも6.7（前期調査△14.0）とプラスを示しました。大型店では、「高額品（宝飾、高級バック、絨毯など）が前期に引き続き好調」だったようです。
- ・ 来期業況見通し DI は、今期比で△18.2（前期調査△16.7）とわずかに悪化予測しています。売上見通し DI は、△2.3（前期調査△11.9）とマイナス幅が縮小すると見込まれており、「消費税増税前の駆け込み需要」を見越して好転を期待する声もありました。

#### 5、サービス業

- ・ 今期業況 DI は、前期比で27.3（前期調査△6.8）と大幅プラスとなり、前年同期比でも25.0（前期調査 2.4）と大幅増を示しました。
- ・ 売上 DI は、前期比で38.0（前期調査△8.7）と大幅プラスに転じました。「出雲大社の大遷宮の効果で売上増」の声が多数あり、遷宮効果の影響が大きく関係しています。前年同期比も26.0（前期調査 6.7）とさらにプラスに伸びています。一方では「大遷宮のお陰で多少潤っているが、原材料価格の上昇により調達が不調」という声もあり、仕入に苦慮しているところもありました。
- ・ 来期業況見通し DI では、今期の好調の反動を懸念し、今期比で△31.8（前期調査△2.4）とマイナス幅が拡大する見通しです。来期売上見通し DI も今期比で△38.0（前期調査 0.0）と状況がさらに悪化すると予想しています。「消費税アップ後、どうなるか不安」と先行きを懸念する声があります。

### 設備投資動向

#### 1、今期設備投資

全業種 設備投資を実施した事業所の割合は37.3%（前回調査 28.3%）と9.0ポイントアップ。内訳としては、「車両運搬具」への投資が30.4%となり、4期連続で最も高い割合を占めました。

建設業 実施割合が48.0%で、「車両運搬具」の割合が最も高くなっています。

製造業 実施割合が38.5%で、「機械・備品」の割合が最も高くなっています。

卸売業 実施割合が41.2%で、「車両運搬具」の割合が最も高くなっています。

小売業 実施割合が27.5%で、「機械・備品」「車両運搬具」が同率で並んでいます。

サービス業 実施割合が39.6%で、「車両運搬具」の割合が最も高くなっています。

## 2、来期設備投資

全業種 設備投資を計画している事業所の割合は39.6%（前期調査 30.4%）で9.2ポイントアップ。内訳としては、「機械・備品」への投資が27.6%となり、3期連続で最も高い割合を占めました。

建設業 設備投資を計画している割合が42.9%で、「機械・備品」「車両運搬具」が同率で並んでいます。

製造業 設備投資を計画している割合は50.0%で、「機械・備品」の割合が最も高くなっています。

卸売業 設備投資を計画している割合が25.0%で、「OA機器」の割合が最も高くなっています。

小売業 設備投資を計画している割合が37.3%で、「機械・備品」の割合が最も高くなっています。

サービス業 設備投資を計画している割合が36.4%で、「車両運搬具」の割合が最も高くなっています。

## 経営上の問題点

- 全業種 第1位は「需要の停滞、受注減少」で29.6%。第2位は「単価の低下・上昇難」、第3位は「店舗・機械・備品等設備の老朽化」でした。
- 建設業 第1位が「単価の低下・上昇難」で、30.4%となっています。第2位には「材料（原材料）等仕入価格の上昇」が入りました。
- 製造業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、24.2%となっています。第2位は「材料（原材料）等仕入価格の上昇」でした。
- 卸売業 第1位が「材料等仕入価格の上昇」で、26.7%となっています。第2位には「人件費の増加」「仕入・人件費以外の経費の増加」が同率で入りました。
- 小売業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、37.0%となっています。第2位は「単価の低下・上昇難」でした。
- サービス業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、31.1%となっています。第2位には「単価の低下・上昇難」が入りました。

注：DI（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から、「減少」・「悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

詳細は業種別景況を参照してください。